



文化庁
平成30年度文化庁文化芸術振興費助成事業

beyond
2020

平成30年度群馬県戦略的文化芸術創造事業

懐かしい未来！
斬新な過去！

群馬のものがたり 指揮する朔太郎

「萩原朔太郎と音楽」をテーマに、マンドリン奏者でもあった朔太郎が臨江閣で演奏した曲の再演や、朔太郎の詩に触発された現代のアーティストによる演奏、詩の朗読を行います。

第1部 朔太郎を歌う -ポケットの中の詩人-
世田谷ピンポンズ、Rinn、Carry 音

第2部 朔太郎を声にする -詩を響かせる試み-
萩原朔美(前橋文学館館長)、手島実優(女優)、
大林菜々(前橋育英高校)、渡辺陽与(桐生女子高校)

第3部 朔太郎を音楽する -よみがえる詩心-
群馬交響楽団(弦楽四重奏演奏)

平成31年 **2月17日** [日]

13:00 開演 (開場 12:30)

臨江閣別館 大広間 (2階)
群馬県前橋市大手町3丁目15

チケット / 2,000 円

チケット購入 / チケットぴあ TEL 0570-02-9999 Pコード492-209

ご入場の際、朔太郎
が好きだったバター
と卵を使ったお菓子を
プレゼント

主催：群馬県、群馬県戦略的文化芸術創造事業実行委員会 共催：前橋市

問合せ先：群馬県戦略的文化芸術創造事業実行委員会 (群馬県生活文化スポーツ部文化振興課内)

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1 TEL 027-226-2593 FAX 027-221-0300

写真提供：前橋文学館 (マンドリンを持った萩原朔太郎)、前橋市文化財保護課 (臨江閣別館)

はぎ わら さく み
萩原朔美



1946年11月14日東京生まれ。映像作家、エッセイスト。母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。1967年、寺山修司主宰の演劇実験室・天井桟敷の立ち上げに参加、俳優・演出家として活躍。1975年、月刊誌「ビックリハウス」をパルコ出版より創刊し、初代編集長を務める。著書に『演劇実験室・天井桟敷の人々』（2000年）『毎日が冒険』（2002年）『死んだら何を書いてもいいわ』（2008年）『劇的な人生こそ真実』（2010年）他多数。多摩美術大学名誉教授。2016年4月より前橋文学館館長。

てしま み ゆう
手島実優



1997年生まれ。前橋市出身・在住。地元前橋で開催されたワークショップをきっかけに、10歳から芝居を始める。中学進学と同時に地元のアマチュア劇団に入団し、舞台に出演。フリーランスで映画、CM、PVなどに出演し、地元群馬から活動を広げている。映画は「カランコエの花」（2016年）、「赤色彗星倶楽部」ヒロイン役（2016年）ほか。舞台は前橋文学館リーディングシアター「夜汽車の人」朔太郎の妹役（2017年）「青森県のせむし男」女浪曲師役（2018年）、陸善舞台プロデュース「寿歌」キョウコ役（2018年）ほか。

世田谷ピンポンズ



フォークシンガー。吉田拓郎や70年代フォーク・歌謡曲のエッセンスを取り入れながらもノスタルジーで終わることなく、「今」を歌うそのスタイルは「六畳半フォーク」と呼ばれる。2015年にはピース・又吉直樹との共作を発表。本や喫茶店にも造詣が深く、様々な方面でも活躍が期待されるあたらしいフォークの旗手。2018年7月～10月・前橋文学館で催された「サクタロウをアートするー解釈の快樂ー」に朔太郎の詩に曲をつけた作品で参加。同年9月、NEW ALBUM『喫茶品』をリリース。

Rinn



前橋市在住、アコーディオン弾きのうたうたい。2010年にアコーディオンと出会い、弾き語りによるライブ活動を開始。現在は前橋を拠点に、各地で演奏活動をおこなう。テーマは「うたものがたり」。ここにいながら「そこにいかれる」、そんな、小さな映画や絵本をみるような時間を作ります。オリジナル曲を演奏するライブ活動のほか、イベント出演やパーティー演奏、各種企画やワークショップなど、様々なかたちでの活動を展開中。

Carry 音



会社員のかたわら、日々のことを歌にして表現している群馬県在住のシンガーソングライター。オリジナル制作だけではなく、萩原朔太郎の詩に曲をつけて歌ったり、北欧地方の民謡を取り入れたり、日々表現方法を研究している。県内をメインに活動中。

第15回群馬県高校放送コンクール入選者

おお ばやし な な
大林菜々

前橋育英高等学校2年。「第14回群馬県高校放送コンクール優秀賞」、「第15回群馬県高校放送コンクール最優秀賞」。平成31年度「全国総合文化祭」の佐賀大会に出場予定。

わた なべ ひ より
渡辺陽与

群馬県立桐生女子高等学校2年。平成29年度「第14回群馬県高校放送コンクール朗読部門優良賞」、「第15回関東地区高校放送コンクール出場」、平成30年度前橋文学館主催のポエムリーディング「心を読む」に参加、「第15回群馬県高校放送コンクール朗読部門優秀賞」。平成31年度「全国総合文化祭」の佐賀大会に出場予定。

群馬交響楽団（弦楽四重奏演奏）

1945年戦後の荒廃の中で文化を通じた復興を目指して創立、1955年「群響」をモデルに制作された映画「ここに泉あり」が公開され、全国的に注目を集めた。1947年から始めた移動音楽教室は、2017年度までに延べ634万人を越える児童・生徒が鑑賞した。2014年6月には定期演奏会が500回に達し、2015年11月には創立70周年を迎えた。群馬交響楽団は群馬県の文化の象徴として県民から幅広く支持されている。



会場 臨江閣別館 大広間（2階）

群馬県前橋市大手町3丁目15

駐車場 隣接する前橋公園の駐車場もしくは県庁北駐車場（12:00～17:00）をご利用ください。臨江閣敷地内には原則として駐車できません。